

表 6 昭和59年度県文化センター事業

事業名	実施期間	場所	参加入場人員
●文化会館			
——自主事業——			
(1)文化庁移動芸術祭巡回公演 邦舞	9. 6	県文化センター	977
(2)文化庁移動芸術祭巡回公演 オペラ「蝶々夫人」	9. 30	県文化センター	1,045
(3)交響楽の夕べ 「東京フィルハーモニー交響楽団」	11. 29	県文化センター	未実施
(4)少年劇場	6. 6～6. 23	福島市ほか8市5町1村	22,827
(5)親子劇場	7. 8	県文化センター	3,654
(6)福島県三曲演奏会	6. 10	県文化センター	1,200
(7)福島県吹奏楽トップコンサート	6. 24	いわき市市民会館	1,770
(8)福島県バレエフェスティバル	9. 9	県文化センター	1,200
(9)文化講座（郷土史） （放送利用①文学②法学③東洋文化）	7. 21～8. 5 年間	棚倉町中央公民館 県文化センター	延人数 477 会員 103
(10)古典文学講演会	10. 6～10. 7	白河市、会津若松市	160
(11)映画会 一般向	5月～3月	県文化センター	実施中
児童向	7月～8月	県文化センター	1,600
(12)地域文化振興協力事業 ——委託事業——	年間	県内各市町村	実施中
(13)家庭劇場（音楽公演） （児童劇公演）	5月、9月～10月	東和町ほか24町村	11,830
(14)文化庁移動芸術祭（広報活動）	9月～11月	福島市ほか5市	実施中
(15)文化活動指導者名簿作成事業	年間	県内各市町村	実施中
●歴史資料館			
——自主事業——			
(1)福島県の修験道展	10. 16～11. 24	県文化センター	実施中
(2)地方史研究講習会	11. 16～11. 17	県文化センター	未実施
(3)古文書研究講習会	8月及び3月	白河市、原町市	実施中 (221)
——委託事業——			
(4)歴史資料館収蔵資料展	7. 3～9. 30	県文化センター	2,462

今後の文化センターの役割と機能を原点に立つて、検討を加えながら、関係機関、団体等との連絡協調をはかりつつ「動く文化センター」事業として、少年劇場、親子劇場等の舞台事業を初め文化講座、各種研修事業等に至るまで幅広く実施した。

特に文化庁移動芸術祭、音楽公演等の、中央の優れたものを、しかも低廉な料金で、県民が均しく、その機会を得るよう配意した。また歴史等に対する認識と理解を促す各種調査、研修会、展示会等の事業を展開し、好評を呼んだ。

次に五十八年度の当館の利用状況であるが、利用入場者総数三十二万余人で前年度対比で七％の減少をみている。施設別の主な利用をみると、文化会館の、大ホールが百三十三回（十八万六千余人）で利用回数は増加しているが、利用者は五％の減少、小ホールが

百七十四回（四万八千余人）で回数も増加しており利用者数も七％程増加している。その利用内容は約五〇％が音楽会の利用でトップを占め、演劇、式典大会、講演会、映画の順になっている。

美術博物館では、美術展等で二階展示室が十六回（一万八千余人）三階展示室が十二回（四万六千余人）で、美術博物館の最終展覧会にふさわしい、フランス近代絵画展、一水会展、院展等が開催された。

また歴史資料館は収蔵資料展等が開かれ五千余人の利用者があった。いづれの館も多目的ホールとしての特徴を生かし、利用者の要望に因應するものとなった。

### 三、福島県立美術館

福島県立美術館は、県民の期待の中で、本年七月二十二日に開館した。当日挙行された県立図書館と合同の開館記念式典は、関係各位多数の出席のもとで盛大に行われ、美術品等の寄贈者に県知事から感謝状が贈呈された。式典の後、玄関前にてテープカットがあり午後一時より一般公開された。

美術館では、企画展、常設展、講演会、各種の講座等を開催し好評を得ているが、以下は五十九年度事業の概要である。

#### 1、企画展

- (1) 開館記念展第一部「生きること・描くこと、戦後の名作にみる人